



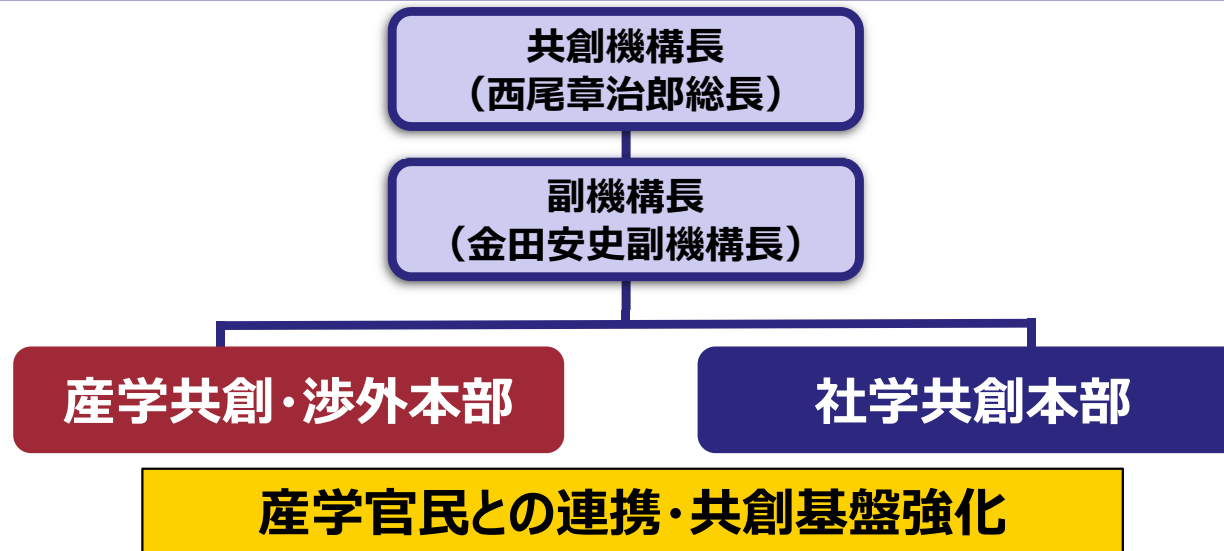
「大阪大学共創機構の取組について」

統括理事・副学長、共創機構副機構長
金田安史

1. 大阪大学共創機構について

- 大阪大学は、社会と大学がその「知と力」を合わせて、新たな価値を「共創」する活動を強化している。
- その中核組織として2018年1月に「大阪大学共創機構」を設立し、「研究開発エコシステム」の構築を進めている。

 大阪大学 共創機構
Co-Creation Bureau, Osaka University



- ① 大学発ベンチャーの起業等による事業化支援
- ② 知的財産戦略の強化（技術移転の促進）
- ③ 産学連携コーディネート
- ④ イノベーション人材育成（大阪大学Innovators' Club）
- ⑤ ファンドレイジング活動・本学卒業生等のネットワーク化
- ⑥ アウトリーチ活動等を通じたパブリックリレーションズ

- 共同研究講座・部門 開設（2006年開始） 実績 80
 - 協働研究所 設置（2011年開始） 実績 19
- （2019年12月1日時点）



2. 大阪大学の強みを生かした知・人材・資金の好循環の実現

研究成果を社会に実装していく中で、新たな問題点や研究課題を研究現場に戻し、そこで得られた研究成果を再び社会に実装していく、「研究開発エコシステム」の構築に取り組んでいる。

研究現場

社会

基礎研究の深化や新たな研究領域の開拓

研究現場

自由な発想に基づく基礎研究
の蓄積

社会課題から
研究現場への還元



社会課題

社会実装によって
初めて明らかになる
社会課題



研究開発エコシステム



社会

イノベーションによる社会貢献

膨大な基礎研究
の中から
社会実装可能な
研究成果が生まれる

研究成果

「共創」によって生まれる
研究成果の社会実装

3. 未来社会共創コンソーシアム

- 大阪大学と産業界との共創を通して将来の新たな社会的・学術的価値と新たなビジネスの社会への提供を可能にする連合組織体（「未来社会共創コンソーシアム」）の20年4月立ち上げ準備中。
- 大阪大学共創機構は、そのコーディネーターを務め複数部局と複数企業による連携・協力を実現する。

国立大学の課題

- ◆ 博士人材・若手研究者の不足
- ◆ 運営費交付金の減少
- ◆ 研究力の低下

未来社会の創造と その達成手段の 検討と実行

社会的な課題

- ◆ 急速な産業構造の変化
- ◆ 自前主義の脱却
- ◆ Open Innovationの潮流



大阪大学の将来のあるべき姿

自社の将来のあるべき姿

長期的視野

研究開発エコシステム

企業ビジョン

社会変革に貢献する
イノベティブな大学

2020.4 ~ 未来社会共創コンソーシアム

複数の部局と複数の企業群の連携・協力による
新たな社会的・学術的価値の創出と新たなビジネスの社会提供

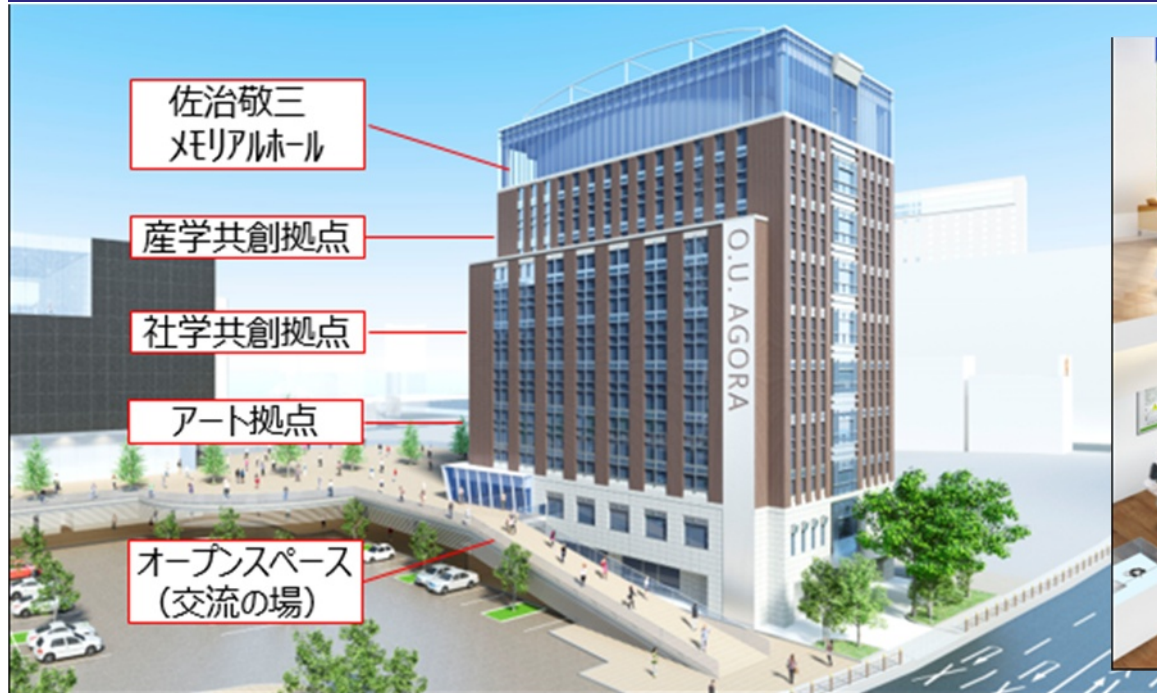


大阪大学の現状

現 状

自社の現状

4. 中之島センターに産学共創、アート、社学共創の拠点を形成



産学共創拠点

大阪大学の有する研究シーズと企業のビジネスニーズのマッチングや専門コーディネータによる産学共創の推進などオープンイノベーションを加速させる拠点

アート拠点

地域及び海外の芸術系諸機関との連携による、アートにおける共創事業の推進、人材育成、情報発信等といった機能を担う拠点

社学共創拠点

地域社会や諸機関との連携による人材育成、人材ネットワークの構築、さらには社学共創のグローバル化といった機能を担う拠点

大阪大学創立90周年・大阪外国語大学創立100周年記念事業へのご支援をお願いします。

1. 大阪大学の課題の1つは、さらに知名度を上げることにあります。
2. 大阪大学卒業生の一人一人が大阪大学の広報員です。
3. 大阪大学の広報をお願いいたします。

最後に、本日の集いの開催にあたり、学士会（国立七大学総合同窓会）から協賛をいただいております。

後ほどお配りする資料の中に入会案内資料をお入れしておりますので、これを機会にご入会をご検討ください。

ご清聴ありがとうございました。